

教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	
安田 慎 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：宗教組織の人類学: 宗教はいかに世界を想像/創造しているか</p> <p>著者：藏本龍介</p> <p>出版社：法蔵館</p> <p>ISBN：9784831856517</p>	<p>世界各地で新自由主義的な諸原則が浸透していくなかで、宗教組織もまた、社会に合わせて自らの姿を変えるようになっている。</p> <p>本書では宗教社会学のなかで議論されてきた宗教経済をめぐる議論をベースにしなが、宗教組織がいかに資金をめぐる問題を、宗教的な事柄として捉えてきたのか、その一端を明らかにしている。</p> <p>そのなかで、現代宗教がいかに、私たちの生活を資本主義的な交換価値のなかに位置づけていこうとしているのか、その背後のロジックがみえてくるであろう。</p>
<p>② 図書名：『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか？』</p> <p>著者：小野寺拓也・田野大輔</p> <p>出版社：岩波書店</p> <p>ISBN：9784002710808</p>	<p>ネット上や公共空間のなかで繰り返される「ナチスは良いこともした」という言説たち。それらの言説に対して、ナチス研究に従事する研究者2人が、史実やそれらが置かれた歴史的な脈から、徹底的に検証を行っていく。</p> <p>本書を読んでいくなかで、史実（事実）を歴史的な脈のなかに位置づけて解釈することの重要性や、歴史的な脈を踏まえて意見することの重要性を、歴史学の立場から指摘する重要な一冊。</p>
<p>③ 図書名：監査文化の人類学</p> <p>著者：マリリン・ストラザーン</p> <p>出版社：水声社</p> <p>ISBN：9784801006942</p>	<p>私たちの日常生活のなかで、様々な書類や事務作業が満ち溢れている。その背後にある「説明責任（アカウンタビリティ）」と呼ばれる考えのもとに、私たちは自分たちの人生の時間や資金、そして労力の多くを費やしているのだ。</p> <p>そうしたアカウンタビリティ（説明責任）という名の下に、徐々に生きにくくなっていく私たちの世界の一端を、文化人類学者たちが描き出した名作。</p> <p>現代社会の先端の現象を人類学的に考察していくことを、これを機に考えてみてもいいのではないのでしょうか。</p>